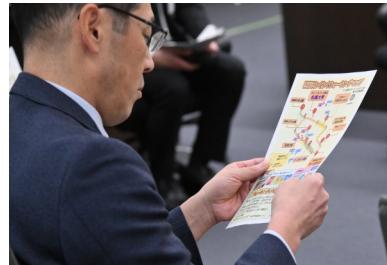


北海道議会との札幌大学連携事業

北海道の可能性を議論 テーマ「学生、大学が地域の資源になるために」

学生らは、本学が本年度から新設をした「ありがとうの交換。」活動支援金を活用して、大学周辺地域（西岡）を活性化すべく「札幌大学スポーツモリアゲ隊」を結成し、防犯・防災・視覚障がい者へ配慮し、更に地域の見どころや飲食店情報を盛り込んだウォーキングマップを作成しました。作成には、豊平区役所、西岡消防署、各障がい者支援団体、商業者の方々に助言をいただき、また、マップの設置にもご協力をいただきました。学生は、この活動を総括する中で、大学生や大学がもっと地域の資源になれば、そこには我々にとっても、大きな学びの機会となるのではないかとの思いが高まり、作成したマップとその思いを北海道議会議員との意見交換会に持ち込みました。



何気なく生活している場所に、溢れるほど
の学びの資源や可能性があることを知りました。
そして「ありがとうの交換」から地域との
繋がりを深め、我々自身が地域に寄り添う
ことで、わくわくと一緒に創ることができ、
そこが、地域共創のスタートラインだという
ことに気づきました。（大山遊人：4年）



■道議会議員コメント

- ・学生の皆さんのが地域と繋がりを持つということは、気づき、学びになるよね。
- ・みんなの4年間の挑戦は、必ず価値に変わっていくから！どんどんやろう！
地域の方々は、若者がこうして考えててくれるだけでうれしいと思うよ。
- ・身近なことに着眼したことが、地域の方もうれしかったと思います。
- ・地域に寄り添うという皆さんのが、全てこのマップに込められてますね！



ウォーキングマップだけに歩くポー
ズ！ですが、北海道の可能性について
厚く議論させていただき「さあ、お互
いに一步前進しよう！」という気持ち
もしっかりと込めてます。いつもノリ
の良い議員さんに感謝しています！
(参加学生一同)

学生たちが普段とは違う表情や姿を見せてくれたことが、教員として印象深く感じられました。これから、社会へと羽ばたく学生にとって、今日は貴重な学びとなりました。各々が地域の一員としての視点や考え方を持



石井 克 講師
っており、今日得たことを持ち帰り、今後の学業や活動に活かしてほしいです。
本日はありがとうございました。

若者の政治参加意識を深掘りワークショップ 「北海道議会議員になったら何がしたい」



学生は、議員になつたら賃金や物価高、生活インフ
ラ、教育問題、更に熊対策を前進させたいと述べま
した。また、こうした問題と政治は切り離すことができ
ない中で、若者の想いをどう政治に活かすのかとの議
員からの問い合わせに「政治家は短い言葉で、自身の政策を
発信すべき」「若者がワカモノの想いを背負い、政治
家を目指のが一番」との意見が出されました。
将来に向けて握手の練習も！（札幌大学党設立？）

議員からは、学生の皆さんのが社会の課題を真剣に考
え、自分の言葉で意見を述べてください、大きな可能
性を感じました。今日、得た気づきや考えを、今後の
学びと人生に活かしてほしいとエールを頂きました。

